

# わがまち自慢 ～町長室から～

みはまちょう  
福井県美浜町  
やまくちじたるう  
山口 治太郎 町長



## おいしい自然、 ハートフル美浜

古来、山が紫に霞み、川は澄みきって美しいという『山紫水明』という表現がありますが、まさに、私たちのまち美浜町を表す言葉だと思っています。四季折々に様々な顔を見せてくれる三方五湖、澄んだ海の敦賀半島西海岸、緑深い森林を流れる耳川など、豊かな自然が凝縮した町であります。こうした海・山・川・湖の風土は、同時に豊かな恵みを私たちに与え、人情味あふれる気風を育んできました。その意味で、私たちの目指す町の将来像の表現を「美(うま)し美浜の創造」と名づけました。

こうした「美(うま)し美浜」を体感していただくため、平成16年から『若狭美浜はあとふる体験』事業を行っております。美浜町の自然や産業、文化、食を体験できる約70種類のプログラムを用意しており、「体験教育旅行」として、全国から高い評価をいただいております。

美浜町といえば、鯖の糠漬「鯖のへしこ」ですが、平成17年に『へしこの町』を宣言して商標登録をしました。来年夏頃、ご当地居酒屋を展開されている事業者が、美浜町の農林水産物を提供する新店舗「福井県美浜町」を東京に開く予定となっております。東日本の方々には、あまり馴染みがないかもしれませんが、この機会に



「へしこ」は魚の糠漬で若狭地方の伝統的な冬の保存食。へしこの代表格が「鯖のへしこ」

「ボートの町・美浜」の恒例行事となっている『美浜町民レガッタ』



美浜町の伝統食「へしこ」を味わっていただきたいと思います。

## 「心」を美しく 豊かに育んでいただくために

昭和43年に、福井国体が開かれ、久々子湖がボート会場に選ばれました。これを契機に、美浜町にボート競技が根つき、今では「ボートの聖地」と呼ばれています。私も県ボート協会の会長をさせていただいておりますが、全国でも珍しい「ボートのまち」としての取組みを積極的に行っており、日本代表選手も数多く輩出しています。毎年10月に、『美浜町民レガッタ』が開かれますが、平成26年には過去最多の263クルーが出場し、全国の市民・町民レガッタとしては、最大規模の大会となりました。また、毎年開催する『美浜・五木ひろしまラソン』も町を代表するスポーツイベントですが、名誉町民である五木ひろしさんのご協力をいただき、4,400名を超えるたくさんの市民ランナーが集まり、県外参加者が7割以上という大会となっております。

こうした生涯スポーツとともに、町制施行50周年記念となった平成16年には、『生涯学習のまち』を宣言して生涯学習の取組みも行っております。

小中学校におけるエネルギー環境教育は、町独自の副読本を作るなど、先進的な取組みとしての評価をいただいております。

修学旅行などの教育旅行で人気になっている『若狭美浜はあとふる体験』事業。子どもたちのみならず、保護者からの評価も高い。写真は『大敷網体験』



来年度から新たにエネルギー環境教育体験施設を整備する予定です。

平成24年に、図書館や公民館、多目的ホールの機能を持つ複合施設『生涯学習センターなびあす』を開館しました。ここのホールには魂のピアノといわれるイタリアの『ファツィオリ社製 F 308』を国内ホールで初めて導入しました。その反響は大きく、国外や県内外の音楽家から注目していただいております。

最後に本町の「定住化対策」についてお伝えします。

これまで、通勤時間帯の渋滞を解消するために美浜～敦賀間の道路を整備した他、保育時間の延長、土曜保育、「子育て支援センター」の開設なども行ってきており、現在は産業団地や住宅団地の整備などを進めています。平成の大合併のときに、本町は、平成22年度には人口1万人を切ると言われていました。しかし、おかげさまで現在まで、その1万人を保っております。

今後とも「自然かがやきいきいき町がにぎわう 美(うま)し美浜」を将来像とし、町民の皆様とともに「協働」による積極的なまちづくりを進めてまいります。(談)

三方五湖は若狭国定公園を代表する景勝地で、平成17年にはラムサール条約登録湿地に認定されている

